

問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115

「平成」という時代が終わりをむかえようとしています。

昭和から平成、そして新たな時代へ残していきたい芦屋の文化・芸術・文化財を振り返ります。

芦屋の平成 美術



コレクション展にならぶ具体美術作品

皆さんに親しまれる身近な文化施設であり、子どもたちが本物に接し、感動する手助けとなる美術博物館を目指しています。



美術博物館 学芸員
大槻 晃実

平成23年(2011) 2月

会下山遺跡 国指定史跡に

三条町にある会下山遺跡は、弥生時代の高地性集落跡です。昭和29(1954)年に山手中学校の生徒によって発見され、その後の発掘調査で竪穴住居跡や高床倉庫跡などがみついています。これらの調査成果から、弥生時代の社会や生活を知る上で重要な遺跡として、平成23年2月7日に国指定史跡となりました。

また、平成13年に会下山の麓にある芦屋市役所三条分室内に設けられた三条文化財整理事務所では、会下山遺跡をはじめ市内の遺跡から発掘された土器や石器などを展示しています。



市内遺跡の出土品の展示

芦屋の平成 文化財



会下山遺跡復元高床倉庫

三条文化財整理事務所で 芦屋の歴史を学ぼう!

- 日時 毎週月・木曜日 午前10時～午後4時
- 会場 三条文化財整理事務所 (三条町39-20)
- 内容 市内遺跡の出土品の展示、体験コーナー「土器に触れてみよう」「芦屋のお宝マグネットづくり」など。
- 問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115
三条文化財整理事務所 ☎23-1175



新たな時代へつなげたい 芦屋文化と「阪神間モダニズム」

平成3年に開館した芦屋市立美術博物館など、市庁舎の四つのミュージアムが合同で開催した「阪神間モダニズム展」(平成9年)は、近代建築の魅力を伝える市民の関心を高め、旧芦屋郵便局電報室(芦屋モノリス)や、作家・村上春樹氏が滞在したという市立図書館打出分室が国の登録有形文化財に登録された。

モダニズム期に芦屋で育った音楽家、貴志康一氏の活躍も盛んとなり、康一の指揮により、ルナ・フィルハーモニー管弦楽団で初演された交響曲『仏陀』が9月14日にルナ・ホールで演奏された。

ルナフィルを指揮した芦屋在住の世界的指揮者、佐渡裕氏は今年1月、同ホールでタクトを執った。

平成12年には近代俳句文芸の殿堂「虚子記念文

学館」が開館。芦屋を舞台にした小川洋子氏の小説『ミーナの行進』(平成18年)が谷崎潤一郎賞を受賞し、芦屋生まれのエッセイスト須賀敦子の評価は高まる一方だ。

古典芸能の世界では、文楽を代表する人形遣い・吉田蓑助氏が文化功労者に、同じく芦屋在住の吉田和生氏が人間国宝に認定された。

河内 厚郎 氏 (かわうちあつろう)

文化プロデューサー
芦屋市の市民センター・公民館・ルナホールの事業運営を行う。「阪神間モダニズム」の名付け親であり、阪神間の文化を再発見し、さまざまな文化事業の企画・文筆活動・講演活動等を展開している。



『芦屋の近代建築』 を刊行しました

戦前の阪神間モダニズムの中で築かれた芦屋の近代建築を紹介するパンフレットを刊行しました。
A5版/33ページ/フルカラー



生涯学習課で配布しています。
(おひとり1冊まで)
ぜひご覧ください!



生涯学習課 森山 由香里

問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115